

## 市田小学校 市民説明会 記録

日	時	令和元年 8 月 17 日（土） 9:30～11:30	場 所	大里コミュニティセンター 大集会室
---	---	-----------------------------	-----	-------------------

(内容)

発言者	発言内容
市職員	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶（総合政策部長、教育次長）</p> <p>3. 熊谷市の公共施設再編方針案について（資料 2～4）</p> <p><b>【資料 2】</b></p> <p>お手元の資料 2 の 1 ページをご覧ください。</p> <p>「1 の再編方針案の基本的な考え方」でございますが、（1）これまで策定した熊谷市公共施設アセットマネジメント「基本方針」や「基本計画」に基づき、老朽化した施設を減らす代わりに、市民ニーズに合致した施設の新設・集約を実施し、同時に公共交通の充実と、民間施設の活用も推進することで、熊谷市の将来を見据えたメリハリのある再編方針案とすることを目指しました。</p> <p>（2）「市民の考え方」の反映につきましては、市民アンケートや、市民説明会、市民ワークショップでのご意見を踏まえて、この案を作成しました。</p> <p>なお、この再編方針案はあくまでも案（たたき台）であり、再検討、修正等を行うことを想定しております。</p> <p>（3）「建物」は減らしても「機能」を移転・存続させ、市民サービスの維持と利用者皆様の活動の場を確保いたします。</p> <p>（4）会議室などの「専用部分」をできるだけ存続させ、事務室、廊下などの「共用部分」を圧縮し、施設複合化のメリットを生かします。</p> <p>（5）管理運営費のかかる「小規模施設」を廃止・集約し、新しい施設へ統合・複合化をすることで、効率的な運営を目指します。</p> <p>（6）修繕費のかかる「老朽施設」を除却し、更新等を推進することで、維持費を節減するとともに、新しい施設によるサービスを提供してまいります。</p> <p>（7）大規模修繕を実施していない施設の場合、総合的に判断して、高額な大規模修繕工事を見送り、新たな施設への更新を進める方が有効な場合には、更新時期の前倒しも検討します。</p> <p>（8）「耐震化」を早急に達成することで、利用者皆様の安心・安全の確保を図ります。</p> <p>続きまして、2 ページをご覧ください。「3 施設分野別の考え方及び主要事業」では、ハコモノ施設を 17 の分野に分け、施設分野ごとに、主要施設の今後の方向性を掲げています。</p> <p>検討時に考慮した事項としましては、それぞれの施設の耐用年限や老朽化の状況、大規模修繕等の実施履歴、耐震化の状況、利用状況、コスト、民間も含</p>

めた同種・類似の施設の市内における分布状況、集約・複合化する施設間の調整、集約・複合化後の利用者の利用機会・選択肢の確保の可能性、などを考慮しつつ取りまとめたものです。

それでは、各施設分野ごとに、説明させていただきます。

なお、「(1) 学校施設」の「①学校規模適正化」及び「④学校給食施設」につきましては、後ほど教育委員会の担当者から説明がございますので、ここでの説明は省略させていただきます。「(1) 学校施設」の②についてですが、閉校となる学校の体育館は、地域体育館として有効活用を図ります。

③ 学校のプールは、利用日数と老朽化の状態を踏まえ、校外方式の水泳授業の順次導入を考えています。

4ページ・5ページをご覧ください。「(2) 市民文化施設」につきましては、5ページの表のとおり、各エリア・地域の様々な貸館施設等を集約し、エリアごとに(仮称)生涯活動センターを新たに整備することで、拠点的な機能を中核に、多様な機能を整え、幅広い世代が集える、市民活動や社会教育の拠点としていくことを想定しております。

なお、表に記載された予定地・候補地につきましては、確定したものではないでございます。施設の種類・機能等によって、開発や建築の条件・制約が課せられますので、施設内容を具体的に検討する中で、候補地が決まることをご了解いただきたいと思います。

次に、6ページ・7ページをご覧ください。(仮称)地域拠点施設整備事業は、広域的に、施設の統合・集約を進める中で、地域における必要性を考慮し、現在の地域公民館等の貸館機能を、地域の小学校等に移転し、体育館とともに、各地域への存続を図るものでございます。公民館機能等を引き継ぐ生涯活動センターとともに、役割を分担し、現在の施設機能の受け皿とすることを想定しています。なお、各地域貸館施設の供用開始予定年度は、その前身となる公民館等の存続期間等により違ってきます。

また、老朽化の進んだ公民館の機能移転を想定するとともに、利用実態を踏まえた地域コミュニティセンター等の地元譲渡も想定しています。

7ページの「(3) 子育て支援施設」でございますが、保育所については、現在の保育需要が高い中で、老朽化した保育所の更新を、統合により実施しようとするものです。

また、既存の児童館に替えて、雨天時でも子供を元気に遊ばせることのできる(仮称)こどもセンターの整備を想定しています。総合保育所とともに、石原地区の蚕業試験場跡地ひろばに、(仮称)総合子育て支援施設としての整備を想定しております。

8ページの「(4) 保健福祉施設」でございますが、保健センターなどの保健施設については、成人保健と母子保健の統合による保健・健康指導サービスの向上、また、業務の効率化の観点から、3つの保健施設を妻沼保健センターへ機能集約することを想定しております。

また、老朽化が進んでおります「休日・夜間 急患 診療所」につきましても、蚕業試験場跡地ひろばへ整備予定の「(仮称)総合子育て支援施設」への併設を想定しております。これにより、保育所・児童遊戯施設・急患診療所の併設による相乗効果が期待できます。

次に、「(5)庁舎等」でございますが、本庁舎建替え時に、現在の「分庁舎方式」を廃止し、本庁機能の集約による業務効率化を図る一方、必要に応じ、(仮称)生涯活動センター内に、行政センター機能の受け皿となる出張所を設置することで、利便性も確保していく予定でございます。

また、各種事務所につきましても、業務の効率化や委託化の推進により、順次廃止してまいります。

「(6)消防施設」につきましては、老朽化・耐震性・災害時の機能維持等に課題のある大里分署と老朽化・耐震性に同様の課題のある江南分署の機能を、南部エリア全体の消防力向上の視点から、吉岡地区周辺に移転集約することを想定しております。消防団車庫につきましては、近隣の消防署・分署や地域拠点への併設を検討することとします。

「(7)ホール」につきましては、適切な規模・グレードの施設1か所への集約を想定しています。将来的には、「さくらめいと」の更新時に、規模・機能・再配置場所などを検討したいと考えております。

9ページをご覧ください。「(8)図書館」につきましては、人口分布等を踏まえ、再配置を検討したいと考えております。

「(9)博物館的施設」につきましては、歴史・民俗、美術、埋蔵文化財のテーマ別の施設再編を検討することとしております。

「(10)水浴施設」は、アクアピア、健康スポーツセンター、老人福祉センターなどございますが、市民アンケートの結果や老人福祉センターの老朽化も踏まえ、全年齢層向けの屋内型の温水浴と冷水浴が可能な施設を整備し、学校のプールの機能受入先とするとともに、子どもから高齢者まで、世代間の交流ができる施設とすることを想定しております。また、スーパー銭湯やスイミングクラブ等の民間施設の活用も想定してまいります。

「(11)公園・スポーツ施設」でございますが、熊谷運動公園の屋外プールを、老朽化や利用日数を踏まえて廃止し、屋内プール「アクアピア」へと機能移転することを想定しております。

更新時期を迎える市民体育館につきましては、「くまびあ」体育館への機能移転も考慮しながら、市民体育館周辺の再整備を検討していきたいと考えております。

老朽化が進む勤労者体育センターや妻沼運動公園体育館を含む地域体育館につきましては、学校統廃合の進捗に伴う学校体育館からの転用による体育施設の増加を見込み、廃止又は更新を検討していくことを考えております。

10ページをご覧ください。「(12)産業施設」につきましては、利用者・民間・地元等との協議・調整により整理・再編を行い、可能なものは、民間

譲渡を検討してまいります。

続きまして11ページをご覧ください。「(13) 人権施設」でございますが、春日文化センターや集会所は、耐震性や老朽化、利用者数を考慮しながら 存続の可否を検討してまいります。

「(14) 環境施設」につきましては、旧妻沼清掃センターを解体・除去し、その跡地を災害時のストックヤードとすることを想定しております。

「(15) 防災・河川施設」は、水防倉庫等、防災施設のため全て存続させます。

「(16) 公共交通施設等」では、本町駐車場は、収支改善方策を検討しながら、当面存続の予定です。その他の駐車場・駐輪場も存続を想定しています。

12ページをご覧ください。

「(17) 葬斎施設」につきましては、今後の利用傾向を見据えながら、設備の増設等を検討するとともに、指定管理者制度の導入も検討します。

以上が、施設分野別の方向性・考え方でございますが、個々の施設には、耐用年数、建物の状況等の違いがあり、集約する場所やタイミング、方法についても、複数の既存施設の調整が必要であり、開発・建築等に関する課題も残っております。

施設の再編については、本市の人口推計、今後の各エリア・地域の状況の変化も踏まえまして、定期的に、必要があれば毎年度でも、個別施設計画を見直していく予定です。

続きまして「4の市民への説明や公表方法」ですが、6月末から7月中旬まで開催したエリア別の市民説明会やこのような地域説明会を通して伺った御意見を参考に、今後の市の施設のあるべき姿はどのようなものであるか、皆様と共に考えてまいります。

資料2、公共施設全体の方向性の説明は以上でございます。

### 【資料3】

続きまして、資料3の施設再配置図について説明します。

こちらの資料は、熊谷市全体を5つのエリアごとに色分けし、公共施設の再配置案等を図示したものになっております。本日は、配置図の中で「オレンジ色」で着色しております、南部エリアのうち「市田小学校区」に関する施設を中心に説明してまいります。ページをめくっていただき、右上に「図の2」とあるものをご覧ください。

公民館等の「市民文化施設」では、エリアごとに新設する（仮称）南部生涯活動センターを、現在の吉岡中の位置を候補地の1つとして、第2期の整備を想定しています。また、各地域の公民館については、生涯活動センターが整備されるまでは、現在の建物の耐用年数などを踏まえながら存続し、その後、地域貸館施設として、小学校の校舎や敷地内に設置・整備を想定しています。

続きまして、図の3「子育て支援施設・保健福祉施設」をご覧ください。こ

こちらのエリアでは、保育所施設の耐用年数を踏まえて、保育需要とともに検討するものです。

続きまして、図の4「庁舎等・消防施設」については、行政センターの本部機能を、第3期2035年から2044年に熊谷市役所に集約し、出張所機能を（仮称）南部生涯活動センターへの導入を想定しています。

また、消防の江南分署と大里分署の統合を、2027年に想定しています。

続きまして、図の5のホール・図書館の「社会教育施設」ですが、あすねつと文化ホールにつきましては、新文化ホールへの集約を第3期に想定しており、大里図書館につきましては、東部エリアも含めた再配置を検討してまいります。

続きまして、図6-1をご覧ください。「水浴施設」では、プールや、健康スポーツセンターなどを示すものですが、第3期に（仮称）アクアピア3として整備することを想定しております。学校のプールは、校外方式への移行により順次廃止します。

続きまして、図6-2の「屋内スポーツ施設」は、統合後の市田小学校の体育館を、地域体育館として活用していくことを想定しています。また、大里体育館の更新について検討してまいります。

続きまして、図の7「産業施設」ですが、大里農産物直売所や大里農産物加工施設は、民間譲渡、又は（仮称）道の駅くまがやへの集約を想定しています。大里穀類乾燥調整施設【ライスセンター】は民間譲渡を検討してまいります。

以上で、資料3の説明を終わりにします。

#### 【資料4】

続きまして、資料4の各公共施設のフローチャートについて説明します。

こちらの資料は、小学校区、または統廃合を想定している小学校区のグループごとに、各施設の修繕・統合・移転・廃止などを時系列で示したものです。

本日は、「市田小学校区」に関連する箇所を説明いたします。資料の右上に16ページとあるシートをご覧ください。

シート下の方にある「⑨（仮称）市田会館」は、大里コミュニティセンター等からの機能の受け入れも含め、市田小体育館に併設とし、地域拠点となることを想定しています。

1つ飛んで「⑪大里第2さくら児童クラブ」は、必要に応じて、「⑩（仮称）市田児童クラブ」として、市田小体育館への併設を想定しています。

「⑫（仮称）南部生涯活動センター」は、市内の各エリアごとに、公民館機能などを集約し、コミュニティセンターや市民活動支援センターとしても利用することのできる生涯学習や市民交流を図るための施設として、新規整備するものの1つです。

17ページをご覧ください。シート下の方にある「⑫（仮称）アクアピア3」

<p>市職員</p>	<p>は、学校プールや健康スポーツセンターなどの機能移転として、小中学校の水泳授業での活用も想定し、整備を検討しています。</p> <p>「㉓市田保育所」は、当面存続を想定しています。</p> <p>「㉔大里体育館」は、当面存続し、第4期に更新の可否を検討します。</p> <p>資料4の説明は、以上です</p> <p>4. (1)学校規模適正化について</p> <p>少子化により、全国的に児童生徒数が減少しておりますが、本市でも、ほぼ全ての学校において児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進行しており、この傾向は、今後も続くことが見込まれています。</p> <p>左下に「市内小中学校の児童生徒数の推移と将来推計」を載せていますが、小学校で申し上げますと、一番左の1982年度が19,018人で、ここをピークに減少を続けています。2019年度は9,334人で、ピークと比較しますと、約51%減少しています。また、2025年度は、今年度と比較すると、約13%減少し、8,099人、さらに、2055年度には、約45%減少し、5,115人まで減少すると推計されており、小規模化に進んでいくことが予想されています。</p> <p>学校が小規模化することによる課題としては、「集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少なる。」ことや「人間関係や相互の評価が固定されやすい。」などの課題が挙げられています。</p> <p>こうした状況から、教育委員会では、少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて、学校規模の適正化を進めることが必要であると考えまして、平成30年11月に「熊谷市立学校の適正な規模に関する基本方針」を策定しました。</p> <p>基本方針では、規模の適正化を図るための推進方策として、「学校の統廃合等」を進め、統廃合を進めるに当たっては、保護者や地域住民の方に対し、趣旨や実施方法等について説明し、御意見をお聞きしながら進めることとしています。また、基本方針では、学校統廃合等の検討の基準を定めています。右の表のとおりですが、小学校については、「学校規模の基準」は、12学級から18学級まで、つまりクラス替えが可能な1学年2学級以上が望ましい。「通学距離の基準」は、概ね4キロ以内で、スクールバスの導入も検討しています。</p> <p>「学校統廃合等の基準」としては、小学校は、「複式学級」が見込まれる場合は、直ちに、検討する。また、「全学年で単学級」となることが見込まれる場合は、「児童数の動向に注視しつつ、検討することとしています。</p> <p>以上を踏まえた上で、「公共施設の再編方針(案)」を作成しています。次のページをお願いします。公共施設のうち、学校施設については、ここに記載してあるとおり4つの方針を掲げましたが、このページは、①の「学校の規模適正化に当たっては、小学校を優先するとともに、児童生徒数の少ない学校を優先して統廃合を検討する。」の部分について説明しています。</p>
------------	---

再編方針（案）では、市田小、吉岡小の2校を統合して、規模適正化を図ることとしていますが、現時点で市田小は全ての学年で単学級となっていて、今後も児童数の減少が見込まれています。

左下のグラフのように推計していますが、この推計値は熊谷市全体の減少率を使って推計していますので、更に早いスピードで減少することも見込まれています。

この2校の統合の方針としましては、2校を対等な関係として統合し、新たな学校として設置することとしています。設置場所については、児童数が多く、敷地面積も広い吉岡小学校で、2029年度からの供用開始を考えております。また、跡地につきましては、地域拠点施設等への転用を含め、今後、検討していきたいと考えております。

最後になりますが、学校規模適正化に当たっては、「子供たちにとって何がベターなのか。」ということを一に考えました。子供たちの将来を見据えて、長い目で考えられる大人が、「子供たちにとって、より望ましい環境をつくり、適正規模の学校の中で学ばせて、その子の持っている力を伸ばしてあげる。」というのが大切ではないかと考えています。

#### 4. (2) 給食センターについて

給食施設の概要について説明いたします。ページは戻りますが、資料2の2ページ下の(1)学校施設を御覧ください。方針の④ですが「学校給食施設は新センターを整備し、自校式は順次センターへ統合」を想定しております。先程「学校規模適正化」で申し上げましたとおり、市田小学校は、2029年に吉岡小学校と統合することを想定し、統合後については、2025年に稼働予定の新学校給食センターから給食を提供することを想定しております。給食施設の概要については、以上となります。

次に、給食施設の考え方について説明いたします。資料はございません。

学校給食施設は、現在、市・町合併前の方式により運用し、熊谷、江南地区は給食センター、大里、妻沼地区は自校式と調理方式が混在しております。より良い学校給食のあり方を検討する中で、市内の子ども達に格差が生じないように、同じ調理方式、同じ献立により給食を提供していきたいと考えております。次に食育ですが、学校における食育は学校教育全体で行うものであり、なかでも、学校給食は、食育について大きな役割を担うものと考えております。新たな給食センターでは、学校と連携し、市内の子ども達に、同じ食育に関する教育環境を提供できるよう取り組んでまいります。

次に、本市の給食施設は、どれも大変老朽化しており、熊谷学校給食センターは37年経過し建て替える方針といたしました。市田小学校給食室は、昭和60年(1985年)に建設され、現在、33年経過し、今後、さらに老朽化が進行すると、異物混入の危険性が高まるなど、衛生基準への適合が困難にな

市職員

	<p>っていきます。学校給食は、安心・安全を最優先しなければなりません。</p> <p>次に、食物アレルギーを有する子ども達への対応です。食物アレルギーは、対応を誤ると子ども達の命に関わる重大な問題です。新たな給食センターでは、アレルギー対応食専用の調理ラインにおいて一元管理を行い、アレルギーをお持ちの子ども達に対しても、安全で満足度の高い給食を提供してまいりたいと考えております。</p> <p>最後になりますが、本市の学校給食は、センター方式を採用し、全ての子ども達に「同じ調理方式」「同じ献立」「同じ食育に関する教育環境」を提供することを考えております。また、衛生管理やアレルギー対応等について管理の一元化を図り、安心して安全な給食の提供に努めてまいります。さらに、関係機関と連携し、市内産、県内産の食材を多く取り入れ、より保温性の高い食缶を導入し温かいものは、温かく、子ども達に提供したいと考えております。</p> <p>このような考えから、吉岡小学校と統合した後については新学校給食センターから給食を提供するという方針案になったものです。以上となります。</p>
市民	<p>5. 質疑・応答</p> <p>大里分署と江南分署の統合は理解ができない。どういうことか想定していない。吉岡への統合にあたっては、分団のみ残るのか、分署機能を残すのか。</p>
市職員	<p>荒川南部地区全体の消防力を向上させるため、大里分署と江南分署を吉岡地区周辺へ移転・統合することを検討しています。統合により消防力を集約することで、人員、機械器具の有効な活用により、複数部隊による迅速な活動や柔軟な部隊運用及び車両運用が可能になるなど、複合的な利点生まれ、あらゆる災害への対応力を高めることができます。また、統合、移転の場合には、大里、江南両分署庁舎は取り壊すこととなりますが、消防団車庫については、原則現状のとおりと考えています。</p>
市民	<p>少子化は理解しており、再編については当然やるべきものと考えられるが、特養などの福祉施設について、計画に触れられていないことから、全ての施設について反対せざるを得ない。</p>
市職員	<p>本日の説明会は、現在の公共施設の説明であるため、計画の中に触れていません。今後の検討課題とさせていただきます。</p>
市民	<p>消防機能が吉岡地区に移ったら市田（大里地域）を助ける事はできない。福祉施設がこの場（計画）で出ないのはおかしい。その検討も含めた説明会である必要がある。このような議論もしていきたい。</p>
市職員	<p>地域貸館や体育館を使って地域の利用をしていただく。公共施設再編後、</p>

	<p>残った施設で活用できるものについては、民間も含めた活用も検討していきます。</p>
市民	<p>大災害が起きる確率より、隣で火事や救急が必要になる事態が生じる方が多い。この地区から救急がなくなるのが、とても心配だ。</p>
市民	<p>これから保護者となる予定である。本日は、市田小学校の話を伺うために来た。説明も市田小だけでなく、市全体の話もあり、的を射た感じがしない。</p> <p>2029年度に市田小と吉岡小の統合について、吉岡小をベースに市田小の子が移動するイメージがある。対等という話であったが、市田小が吉岡小に来たという感じがして公平性は感じられない。例えば、小5になったときに統廃合がある場合、入学当初から吉岡小へ入学することは可能か。</p>
市職員	<p>本日は、市田小学校地域説明会は、市田小学校だけでなく地域の施設についても説明対象です。小学校の関係については、PTA やこれから保護者となられる方を対象とした意見交換会等の開催も想定しています。</p> <p>確かに吉岡小の子どもからすると、市田小が転入してきたというイメージが生じてしまうかもしれません。これを払拭するため、統合前には十分な交流の機会を設け、統合時には両校の児童が仲良くなっている状況を目指していきます。また、統合に関する事前学習も取り入れていきたいと思います。統合後についてもアンケートや面談を行っていき、心のケアも含めて対応したいと思います。</p> <p>また、他の説明会を実施した際にも、事前に統合がわかっているなら入学の時から新しい学校へ行っていいのかという質問がでていました。決定事項ではないが、原則として統合の年から新学校へと想定していますが、各家庭の判断で前もって入学したい場合には、認める方向で調整をしています。</p>
市民	<p>給食の自校式を廃止してセンター方式とするのはなぜか。説明で公平性といっていたが、公平性はなぜ必要なのか。今までなぜ自校式だったのか。</p>
市職員	<p>市全体の公平性を取りたいと考えている。今までは合併前の状態を引きずっている。</p>
市民	<p>給食について、センター方式は時代に逆行している計画ではないか。自校式の良い面を進めていくべき。自校式であれば、地域の地元食材を使用でき、また、食育により心も体も育つことができる。校庭が広いのだから、どうすれば自校式でいけるのかを検討すべきであり、それを考えるのが行政の仕事である。</p>

市職員	<p>平成 27 年度に全小中学校の敷地調査を実施したところ、市内 1/3 の学校が自校式への移行ができないことが判明しました。そのため、自校式への移行ではなく、センター方式とすることとしました。</p> <p>食育の観点から考えると、給食だけではなく、授業においても養われていくものと考えます。そのため、センター方式であっても食育を行う事は可能であります。センターであっても地産地消で行っています。</p>
市民	<p>2050 年度の熊谷市の経営のあり方がわからない。そこがわからないと再編が必要かどうか判断がつかない。</p>
市職員	<p>今回は、2040 年までの公共施設について掲載しています。経営などについては、行政側の状況は示していません。職員配置や給料の想定はまだできていません。その点については、不確定な要素となっています。</p>
市民	<p>資料 1 の説明を行った方がいいのではないかと。前回（エリア別）説明会の時は説明があったのに、今回は説明がないから、参加者の共通認識が取れないのではないかと。</p>
市職員	<p>説明ができず申し訳ありませんでした。資料 1 については、人口減少や人口構成の変化から現状のままの施設を全て維持することはできないという視点から、公共施設の再編を検討する必要があるというものです。</p>
市民	<p>深谷市から市内下恩田に 3 年前に引っ越してきた。引っ越しの理由としては、近くに小中学校があつて預けられる環境があつたためこの地域に決めた。今回の統廃合については、悔しい気持ちがある。統廃合を進める事によってこの地域に引っ越して来る人は減少するのではないかと。</p> <p>案だとスクールバスの導入と記載されているが、体力面が心配である。「知・徳・体」と言っているが、付け焼きの言葉になっているのではないかと。</p> <p>30 人学級はどうなのか。一人一人をちゃんと見てもらえるのか不安である。また、吉岡小と市田小の統合としたのはなぜか？吉見小との統合はないのか？</p>
市職員	<p>学校の統廃合は、子ども達の教育環境の向上を図ることを第一に考えております。小規模校の良さはたくさんありますが、子ども達に「知・徳・体」の確かな学力を身に付けさせるためには、ある程度の規模（クラス替えのできる規模）の中で子ども達に学ばせた方が、さらに力を伸ばすことができると考えております。</p> <p>スクールバス導入による体力面の不安については、併せて、必要な対策を行うことを検討します。</p>

	<p>統合する学校については、吉見小が現時点で適正規模が保たれていること、統合した場合の通学距離、各地域に小中学校どちらかを残すということなどを考慮し、今回の案を提示させていただきました。ただし、児童数の推移の状況によっては、今後も統廃合を含めた検討を行います。</p>
市民	<p>統合をすると市田小学校区の子どもが減ってしまうのではないかと。これから来る人もスクールバス通学だと他地区へ行ってしまわないか。また、市田地区へ公園などの公共施設設置の予定はないか。</p>
市職員	<p>学校の統廃合は、子ども達の教育環境の向上を図ることを第一に考えております。公園等の具体的な予定は現時点ではありませんが、小学校を地域体育館、地域貸館施設等によって構成される地域拠点施設への転用を見込んでいます。</p>
市民	<p>基本的な考え方は、人口減少から致し方ないものと考えられる。資料2で老朽化した施設から統廃合を検討しているという説明だったが、時代遅れとなっている施設を優先に検討すべきではないか。例えば人権施設やプール。</p> <p>国の同和対策事業は終了しており、春日文化センターはあまり活用されていないのではないかと。プール等はあまり使っていないため、無くすのは時代の流れで仕方ない。市民ニーズ、時代遅れ施設こそ無くしていくべきでそこから維持費を削っていくべきである。</p> <p>小学校は単学級であっても残すべきではないか。根本的な考え方を変更していくべきではないか。</p>
市職員	<p>老朽化だけではなく、施設ごとの稼働率も含めて集約などを検討しています。ご指摘のあった春日文化センターについては、2013年から2015年平均で45.7%の活用があり、箕輪集会所については、8.1%となっています。人権教育という使用用途を限った場合の数値は確認させていただきます。</p> <p>いらなくなったものは減らし、学校そのものを残すという意見について理解はできます。少人数学級の良さも十分理解しています。理解した上で、今後の長期的な目で見るとき、単学級や複式学級で生活を送るより、ある程度の規模の中で子ども達を学ばせた方が、さらに力を伸ばすことができると考えております。</p>
市民	<p>通学距離が4km、6kmとなっているが、小学校に集まってから行くのか、バス停を作るのか。通学距離の4kmと6kmの意味がわからない。スクールバスを活用する場合、市田小学校区の子達はみんなスクールバスかを使うのか？</p>

市職員	<p>現在の市田小学校区の児童については、統合後、全員スクールバスで通学することを想定しています。具体的な運行方法は、今後学校や保護者、地域の皆様と相談しながら、安全に通学できる方法を決定したいと考えています。”</p>
市民	<p>市田小と吉岡小の統合となった場合は、学校名を変えて欲しい。</p>
市職員	<p>学校統合にあたっては、両校対等の統合とし、新学校名・校歌・校章等を検討してまいります。</p>
市職員	<p>今日は、限られた時間の中のご意見・ご質問となり申し訳ございませんでした。ご意見やご質問については、次第の一番下にあります連絡先にお電話またはメールにてお聞かせください。本日はありがとうございました。</p>